



狭山で『災害』が起きたら

4年前の広島豪雨、今年7月の西日本豪雨、6月の大阪での震度6強の地震。狭山で同じ規模や、それ以上の災害が起きたら、どうなるでしょう？

国内各地の災害現場に行って痛感するのは、阪神大震災が起こる以前と比べると、明らかに地震・火山・竜巻などの災害が多発しています。ここ数年は、『**大災害 多発時代**』と言っても過言ではありません。

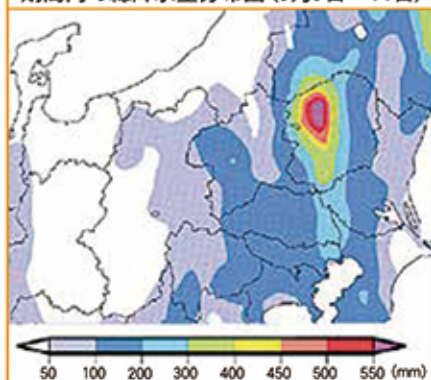
また、この夏の連日35℃越えにより、日本は温暖化し、『亜熱帯』地方になったと皆さんも感じていらっしゃると思います。それがよく分かるのが、各地の豪雨災害の大きさです。

広島豪雨現場(写真)

雨水がたまっている所は『道路』。私が泥かきしていた所のすぐ近くで、行方不明者の捜索が行われていました。



期間内の総降水量分布図(9月9日~11日)



鬼怒川決壊した時の降雨量(気象庁)

3年前、鬼怒川が決壊して、浸水した範囲は40km²。狭山市の面積は49km²ですから、単純に言えば、狭山市内の8割が浸水した事になります(市内に高低差があれば、低い所は、余計に被害が大きくなります)。

狭山市の不老川があふれた2年前、1日で降った量は17cmでしたが、鬼怒川では55cmで救助者が4300人ですから、規模が違います。**たまたま被害が鬼怒川だっただけ**で、雨雲が西にずれていたら、どうなっていたか。今後、狭山で起きないという保障は無い訳です。



2年前の台風では、不老川があふれた事により、西武新宿線も長い時間止まったので、川の近くに住んでいる方だけの問題でもありません。

不老川は、東京都瑞穂(みずほ)町から入間市を通過、狭山市内を流れており、狭山市内だけの対策では限界がある事から、本木県議や入間市の県議とも連携して、県庁に対し、上流での新たな調整池などの整備を求めています。狭山で災害が今後起きて「これ程とは思わなかった」は、言い訳になりません。

入間川については、市内 水富地域の方から「入間川は昔、はん濫(らん)した事があり、堰(せき)にたまった土砂を取り除いて」と提言頂き、お陰様で改善されました。

しかし、いくら県庁・市が防災対策に取り組んでも、それを上回るのが災害です。

私たち市民が、家族・知り合いに声をかけたいのは、

- ①寝ている所の家具の固定は、終っているか。
- ②お米など日頃使っている物を、買い増しして、備蓄しているか。
- ③豪雨でこれまでは避難が必要無かった所で、対策が必要な時があるのではないか。などです。

私たち狭山市民は、他県で起きた災害を、自分達の命を守る教訓として具体的行動に、つなげられるでしょうか？

行政の防災対策と、私たち市民の具体的な備えにより、『都内より安全な狭山』にしていきたいと思えます。

◆ 西日本豪雨災害募金 36万900円(8月24日現在) ◆

県議として西日本豪雨災害の義援金募金活動を、狭山市駅・新狭山駅・入曽駅で行い、ひろし事務所前に募金箱を設置して、受け付けております(現在は、大阪北部地震の義援金募金も)。ご協力をお願い申し上げます。(上記金額には、七夕祭りなどで赤十字として行った募金額は含めていません)



にんしんSOS埼玉

子供の虐待対策

埼玉県は、子供の虐待が東京・大阪に次いで全国3番目に多い状態です。目黒区で殺された結愛(ゆあ)ちゃんのような虐待殺人は、埼玉県内でも度々起きており、県庁に具体策を提言しています。

高校生以下での【妊娠中絶】は、県内で年間298人(小学生2人・中学生31人)。妊娠相談の『にんしんSOS』窓口が先月、開設されました。

児童相談所に寄せられる虐待通報は全て警察へ情報共有される事が実現しました。

虐待通報で、年間千人の県内の子供が保護されていますが、学校をはじめどこにも行けなくなる『一時保護施設』にいる日数は平均41日で、学生は定期テストを受けられず、内申点が付きません。これでは『健康で文化的な最低限度の生活』と言えないと思います。そこで、里親募集の推進だけでなく、児童養護施設の増設や、虐待防止対策を外部の専門機関にも担って頂く事を求めています。

◆『介護職員が足りない』問題◆

行政は『困っている方の為』にあり、ご存知の通り、市役所の他に、県庁、国の省庁があります。

県庁の取り組みは、皆さんに伝わっていないと言うより、あれもこれも全ての分野の部署があるものの、『困っている県民』の事をシビアに感じ、対策を取っていないので、伝わらないのだと思います。困っている県民への手立ての“問題意識”が明確で無ければ、誰の為の県庁なのかとなってしまいます。

また、市町村や国に出来ない事で、県が本来やらなければならない事は何なのか。たとえば市町村では、国民健康保険や介護保険と、予防対策を行い、県庁は、医療対策に取り組んでいます。県庁が、市町村の取り組みに、ただ乗っかっていたり、国の言いなりな状態が見受けられる事から、県『医療・介護』計画の県議会での審議で、介護で大変な生活をされている方の為の対策を求めると共に、『介護職員が足りない』問題を、介護職員の年収UP策も含めて取り上げ、県独自に介護職員の人材育成をする事になりました。

県庁職員の『介護現場実習』を求めたところ、今後実施される事になりました。時間がかかる部分もありますが、『困っている県民の不安に寄り添う』県庁に変えていきます。

【若年性認知症】は、市町村の単位では人数が少なくても、**県全体では2千人**と推計されていますが、認知症と診断された方が、仕事をどれほど続けられているか。今の職場で仕事が続けられなくなっても、アルバイトや福祉的就労・社会参加が出来ているかを、県庁はこれまで把握していません。若年性認知症の方の県施設での就労は、実績が無く、今後の計画も現在無いので、対策を求めています。民間事業者に就労を求める前に、県庁でやらなくてどうするのでしょうか？ガンやメタボの検診と同様、「検診に行ってください」と呼びかけるだけでは、認知症検診に、足が向きません。『診断されても、希望が持てる』ようにすべきだと思います。

【国民健康保険税】を払う事が中々出来ない家は、県内に3万件あり、減免制度があるのに県内14%の市町村役場しか利用させておらず、制度が徹底されていません。国民健康保険に加入しているのは低所得の方が多いので、低所得者がいない県職員の健康保険(共済組合)と国民健康保険を合併させるべきです。県職員は困らず、県民だけが困っている状況で、いいわけがありません。国民健康保険は県が今年から担当になり、上田知事が全国知事会の会長に就任したので、県に対応を求めています。

◆ TV埼玉に出演 9月2日(日)午前10時から放送 ◆

地デジ3チャンネル。15分番組で、6分話します(2人目)。録画するなどして、ご覧頂ければ幸いです。(番組名『こんにちは県議会です』)

◆ 心臓移植成功!『秋也(しゅうや)くん』が、ひろし事務所に来訪 ◆



多くの方の募金のご協力で、米国での心臓移植が成功。帰国した埼玉県新座市民の菊地秋也君(中学1年)とご家族が、ひろし事務所に来訪。

秋也くんや弟さんと、少し追いかけてきました。弟想いの秋也くんでした。

写真右端が、秋也くん(ひろし事務所前にて。7月8日)

骨髄バンク登録会・献血♥

8月31日(金)、狭山市役所で9時半～4時(0時～1時15分は休み)

白血病で、全国2千人以上が毎年新たに骨髄移植を待っています。骨髄移植が必要な患者さんは、他に助かる見込みが無く、移植までに残された時間も限られ、4割の患者が移植を受けられません。1人でも多くの方が助かる為に、骨髄バンクへの登録をお願い致します。(提供に実際につながる確率は、わずか5%。登録は、献血する前の2ccの採血で出来、助かる命があります。54才以下が登録の対象ですが、それ以外の方にも知って頂き、対象の方に声をかけて頂ければ)

県議として難病対策に取り組み、全国で初めて埼玉県は全ての市町村で、骨髄提供者への助成制度(仕事を休んで、骨髄提供する為)が作られました。

中川ひろしホームページ <http://hiroshinakagawa.jp/>

ひろしの毎日の活動・発言を公開中。ぜひ1度ご覧下さい!  も

ご意見・ご相談などは↓こちらへ

県議会 無所属改革の会代表

県議会議員

中川ひろし

ひろし事務所 〒350-1308 狭山市中央4-25-4 (マルエツの通り。高柳会計さん前)

ひろし事務所は11時半～4時までオープン!(それ以外の時間も)

電話 **090-3310-9234** FAX **2958-8643** kids-dream@docomo.ne.jp hknkgw@nifty.com

中川ひろし

検索



ひろしアドレス